

Mongolia

# Friendship

Japan

モンゴル障害児教育研修団研修報告



日本サーバス

## 目 次

|                            |                |     |
|----------------------------|----------------|-----|
| 1、主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | 日本サーバス会長       | P2  |
|                            | 日本サーバス近畿支部長    |     |
| 2、お祝いの言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 京都市長           | P4  |
|                            | モンゴル国名誉文化大使    |     |
|                            | 元大阪府立茨木養護学校長   |     |
| 3、モンゴル障害児教育研修団受け入れの経過・・    | 日本サーバス会長       | P7  |
| 4、モンゴルにおける障害児・・・・・・・・      | モンゴル障害児教育研修団代表 | P8  |
| 5、研修の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | 日本サーバス近畿支部長    | P10 |
| 6、研修の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | モンゴル障害児教育研修団代表 | P13 |
| 7、未来に向かって・・・・・・・・・・・・・・・・  | 日本サーバス近畿支部長    | P26 |
| 8、ご協力いただいた方々・・・・・・・・・・     | 日本サーバス近畿支部長    | P27 |



## ご挨拶—日本サーバス 50年の歴史の中で—

日本サーバス会長

このたびは、日本サーバス主催のモンゴル障害児教育研修団プログラムに、多くの皆様のご協力をいただきましたことは感謝にたえません。



実はサーバスは、会員の力を結集して特定の運動や事業を行うタイプの組織ではありません。個々の会員が、外国の会員との個人的な交流を通じて自分自身の資質を磨き、各自の生活や職業の場で国際の平和に貢献することが期待されており、実際に国際サーバスは国連の経済社会理事会で異文化教育を目的とする NGO として登録されています。

第二次大戦の惨禍への反省を基に、両大戦間に平和運動に関わっていた人たちは、戦後の早い時期から周辺の国を相互に訪問して平和の問題を語り合っていました。その際に自宅を会合の場に、さらには宿泊先として提供するようになり、ついには、いつでも訪問しあえるように住所録を作って交換するようになりました。このネットワークを組織化し活性化したのが、戦争中は CO(良心的兵役拒否者)として息苦しい生活を送っていた米国人の若者でした。彼は、ホームステイを通じた個人間の交流が、より深い相互理解と友好親善を結果し、ひいては異文化融和と世界平和に貢献するとの信念を基に、1949年に欧州と米国で Friends of Servas を立ち上げました。Servas の語は、We serve. を意味するエスペラント語と、チロル山中の Hello! にあたる古語に由来します。日本には英国人の学生によって 1962年に紹介され、同年に日本サーバスが設立されました。現在では約 130 の国や地域に 1 万人の会員がいて、短期のホームステイを提供しあって交流しています。

その日本サーバスが、今回のプログラムの主催者として名乗りを上げましたものの、これが日本サーバス 50年の歴史を画する新しい動きとなるか、実は会員自身が期待と不安の相半ばするところです。初志を忘れずに地道な活動を続けていくためにも、今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 限りない感謝を込めて

日本サーバス近畿支部長

2013年秋のサーバス東アジア会議の時に、モンゴルのサーバス会長 Hg さんが「障害児教育について日本に学びたい」と言われたのがきっかけでした。2014年夏、Hg さんが日本に来られて、Kr・Sm 両先生の助言で障害児関係施設の見学をし、又、障害児関係のお話をお聞きして、実現の兆しが見え、実施に向けて動き出しました。京都での研修は St 様が計画して下さいました。モンゴルの人にとって大変なビザの取得は、Sn 様がお引き受け下さり、希望者全員が日本へ来られる事になりました。モンゴルの方がモンゴル政府から何の援助も得られない事を知って、日本サーバスは金銭的に支援する事を決めました。



モンゴルの方を迎えての歓迎交流会では、会場を提供して下さいました Nt 様を初め、Eh さんが通訳を、ケイオンズや Bt さんが音楽演奏を引き受けて下さいました。研修に忙しく数少ない観光でしたが、訪れた東本願寺、ながらの座・座、ブラスアンサンブルサタディのコンサートでは、特別の配慮をして下さいました。

見学先ではモンゴルの方に対する行き届いた配慮があつて感激でした。止揚学園では、園の方やモンゴルの方がお互いに歌を歌い合う歓迎の昼食会でした。遠いともがきへは友人が車で送迎して下さい、園では障害を持った Ch 君に実践の場を提供して下さいました。金剛コロニーの Ts 様は、同じ事業団で働くモンゴルの Bt さんを通訳に頼んで下さいました。富田林養護学校の校長先生はモンゴル語で話し、映像の文字もモンゴル語でした。校内の生徒は「サインバイノー」とモンゴル語で挨拶をしてくれ、教室にも「モンゴル歓迎！」と書かれていました。大阪市の学校では、授業見学の時、モンゴルの人も歌を歌いました。京都の学校では、Ch 君も生徒と一緒に遊びました。大阪LD親の会や京都市教育相談総合センターは、必ずしも都合の良い日ではなかったのに、快く応じて下さいました。

支援金はサーバス以外の方も多く寄せて下さり、目標額をはるかに上回って集まり、本当に感謝です。

モンゴルの方は、良い研修であつたと言って下さいました。

力及ばずの私でしたが、皆様からの数々のご協力を受ける度に、ご好意を無にしないように頑張らねばと、最後まで皆様に励まされて役割が果たせました事は、言い尽くせない感謝です。

地球上には数え切れない人がいて、そこで出会えるのは本当に偶然のようです。今回モンゴルの方を中心に多くの出会いがありました。出会えた事を大切に温め、より豊かな未来が作れる様、皆で協力していけたらとても嬉しいです。今までに寄せられた数々のお心に心から感謝すると共に、今後とも、温かく見守って頂けます様、宜しく申し上げます。

## 市長挨拶文

### 日本サーバスモンゴル障害児教育研修団歓迎会 (平成 27 年 5 月 9 日 於:近江屋ロープ株式会社会議室)

モンゴル障害児教育研修団の皆様、ようこそ京都にお越しくださいました。147 万人の京都市民と共に、心から歓迎いたします。

また、このたびの研修の実現に御尽力されました日本サーバスの皆様におかれましては、長年にわたり、各国の会員の皆様と共に、国際親善や異文化理解、世界平和につながるお志の高い御活動を続けていただいております。改めて深く敬意を表します。モン



ゴルの皆様と日本人は民族的に同じルーツを持つとも言われており、顔立ちがとてもよく似ています。また、白鳳関をはじめとする多くのモンゴル出身の関取の御活躍もあり、私もモンゴルには大変親しみを感じています。

明日からの研修では、京都をはじめ関西の障害者施設や教育機関を見学されると伺っております。京都市では、障害の有無にかかわらず、全ての方が個人として尊重され、いきいきと活動しながら、相互に支え合い安心してくらせるまちづくりを進めています。皆様が研修で感じられたこと、学ばれたことを、貴国の障害児教育の発展に生かしていただければこの上ない喜びです。

また、昨年京都は、世界的に大きな影響力を持つ旅行雑誌「トラベル・アンド・レジャー」誌の読者投票で人気都市世界一に選ばれました。この機会に、世界の人々から評価いただいた京都のまちなみや文化、おもてなしなど、多彩な魅力にも触れていただければと存じます。

結びに、今回の研修が皆様にとって実り多いものとなりますこと、そして貴会の今後ますますのご発展と日本・モンゴル両国の更なる友好親善を祈念いたします。

京 都 市 長

門 川 大 作

## ご関係する皆様方へ

モンゴル国名誉文化大使

日本モンゴル文化経済交流会会長



このたびモンゴル国より来日された 11 名の方々の受け入れに関して、日本の皆様の上ない多大なるご厚志に触れ、大変感激いたしました。

私は、かねがね、たまたま障害を持って誕生した命が生まれ落ちた国の事情で様々な困難に陥っている現実に関心が痛んでおりました。

昨年、Ht さんよりご連絡をいただいて、計画を承り、私は初めて日本サーバスの活動を知りました。迂闊なことでした。自分の不勉強を恥じました。

それで、自分にできる事は何かと思いをめぐらし瞬間的に自分の役目を決めました。長い間モンゴル国の名誉領事をしていた関係で自分にできる役割がわかりました。小さなことでも、少しでもお手伝いしたいと思いました。お役に立てたとしたらうれしい限りです。

私は 1989 年からモンゴルとご縁があつて、モンゴルには 200 回を超える回数を往復してきましたのでモンゴル事情なら分かるほうだと思います。

今迄にもこうなつて欲しいというモンゴルの福祉行政に対して願いもありましたが、現実には厳しくなかなか良い方向にはゆきません。結局、自分で動くしかないとは悟りの境地です。日本においても弱者にとってはそれほど良い環境整備が出来ているとは思いませんでしたが、モンゴルにおいてはまだまだ入り口にも立てていない状態を憂えています。

今回、そのモンゴルから親の会を中心に来日していろいろ日本から学びたいという、それ自体に驚きました。日本側に Ht さん、モンゴル側には Hg さん。このお二人がいたことが事態を動かしたのです。大きな前進だと思います。沢山の施設を回り大勢の方々に支えられて、自分たちの少し先の目標を見定めて帰国していった彼らの勇気を称えたいです。困難は承知でしょう。でも、今回の来日で沢山の学びと、仲間に出会い力をもらって帰国したことが Hg さんの報告書にあふれていました。

私も、若い時に会った糸賀博士の言葉をいつも考えています。「この子らを世の光に」。この思想がモンゴルにも根付いて行くことを心から願います。以前、びわこ学園改修のために、「抱きしめて琵琶湖」という企画があり私も生協役員をしていた関係でそれに係わりました。日本中から 1987 年 11 月 8 日正午に琵琶湖一周 240 キロを、1 分間だけ皆が手をつないで琵琶湖を抱きしめたこと。参加者全員はその 1 分間、隣り合う人が誰かは知らないけれど、琵琶湖を向いて手をつなぎ、琵琶湖を皆で抱きしめたこと。一人 1000 円を出し合つて集まつたお金でびわこ学園を改修できたこと、などを思い出しました。その時に誰からともなく琵琶湖周航の歌の大合唱になつたことなどが今でも耳に残っています。

同じ思いの皆様方と繋がつて、今度は地球規模で愛をもって地球を丸ごと抱きしめるなんてできないものかと思つています。初めてのモンゴルからの目的を持った訪問団受け入れは次に始まる何かのスタート地点に立つたのだと思つています。

## 架けた橋を渡りましょう！

元大阪府立茨木養護学校長

茨木養護学校の教諭であった Ht さんより、未だ義務教育の枠外に置かれているモンゴルの障害児教育への援助について、相談を受けました。



日本でも現在の障害児教育の体制に至るまで、約 100 年の時間が必要でした。阻害、無視、放置された状態から、少しずつ「人は皆同じ」「人間として生きる権利は平等」という意識に社会全体が変化し始めたのです。「教育」が始まりのスタートでした。障害のある子供たちの処遇が変わることによって、周囲の子供たちの意識が変わり、親と社会が変化しました。まだまだ不十分な所がありますが、「障害児に世の光を」から、「障害児を世の光に」に一步踏み出し、さまざまな曲折を経て、今は「みんな違ってみんないい」を目指しています。

距離的には遠い国、モンゴルと日本の関西に、今年 5 月大きな橋が架けられました。そして、私たちの国の中にもたくさんの小さな橋ができました。橋は人や車が往来して初めてその存在を発揮します。モンゴルの 11 名の人たちはその橋を渡ってきてくださいました。私たちもお迎えの準備をするにあたって、教育機関、学校や施設は、子供たちや利用者を含めて、改めてモンゴルについて学び、歓迎の方法を工夫し、ある人はモンゴル語を学習しました。車の提供と運転を快く申し出て下さった方、ホームステイで滞在中の食事や寝室に最高のおもてなしを工夫された方々、等々の大勢の人たちが知恵を出し合い、力を出し合いました。そのエネルギーの大きさに私は驚きました。このエネルギーを持って次は私たちがこの橋を渡ってモンゴルに行けたらと思います。

モンゴルで障害、病弱、貧困といった弱い立場の子供たちが、目を輝かせて暮らすことが、日本や世界の子供たちの幸せにつながることを信じています。



## モンゴル障害児教育研修団受け入れの経過

日本サーバス会長

2013 年秋に中国広州市で開かれたサーバス東アジア会議の席で、モンゴルサーバス会長の(通称 Hg さん)から近畿支部の Ht さんに「モンゴルでは障害児が教育の枠外に置かれて惨めな状態にある。障害児教育等について日本に学びたい。」との話が出ました。

自身でも障害児教育に関係してきた Ht さんは 2014 年夏にモンゴルを訪問し、Hg さんも来日して、お互いの国の障害児の置かれている状態について理解しあいました。Hg さんは日本の関係施設を見学し、関係者の話を聞いて「ぜひモンゴルの関係者を集めて日本に研修に来たい。モンゴル政府と交渉する。」と言って帰国されました。当初はモンゴル文部省の後援を期待しましたが、政治情勢の変化で政府の補助は全くあてに出来なくなりました。それでも Hg さんを含めて 11 名の研修団が組織されて、全員が自費で来日されることになりました。

日本側では Ht さんが奔走して研修プログラムが生まれ、サーバスホスト宅を中心にホームステイ先が準備されて、この計画が実現の運びとなりました。

日本サーバスでは、今年 3 月に福岡市で開催された今年度の国内会議で協議の結果、日本サーバスとしてこの研修計画を主催する事、具体的には近畿支部が担当して実施する事としました。また、費用の面でも、1 ヶ月 2 万円で生活出来るとも言われるモンゴルの人々にとって、往復の飛行機代だけでも莫大な出費です。それを厭わずに障害児教育を進展させようとする参加者の熱意に対して出来るだけの協力をしたいと思い、参加者の往復旅費は自弁とするが、研修中のホームステイ提供を含めて滞日中の経費を援助する目的の募金を実施することを決議しました。

以上



## モンゴルにおける障害児

### モンゴル障害児教育研修団代表

モンゴルはこの25年間、社会主義から自由経済体制へと移行しています。そしてその事は政治の中枢で自国の体制を創りあげる事なく、“東洋”から“西洋”へ移行することを意味しています。それ故、私たちは、経済だけでなく又、政策、組織そしてその実行にあたって多くの困難に直面しています。例えば、学校教育はその教育終了を10年、11年、12年と根本的な検討もなしに数回変更してきました。教育の質は大きな問題で、例えば、TIMSS (International Test of Education) によれば、モンゴルの数学教育の水準は35%で、科学教育の水準は28%となっています。

障害者に対する教育は見捨てられてきた分野で、政府はこの25年間、経済的危機や政策の失敗で注意を払ってきませんでした。障害者のための学校に対する政府の支援は経済面、政策面、そしてその遂行について十分ではありません。

障害のある子どもたちについてのいくつかの事実があります。

- ・ 障害のある子どもたちの80%は、貧困家庭と脆弱な家庭の子どもたちです。
- ・ 障害のある子どもたちに対する社会の気配りは温かいものではありません。
- ・ 障害のある子どもたちに対する苛め。
- ・ 保護者は自分たちの子どもが障害のある子どもたちと遊んだり、友達になることを嫌います。
- ・ 学校では、どのように障害のある子どもたちを支援するか教えません。
- ・ 障害のある子どもたちの両親の殆どは、彼らの子どもを隠し、外へ出ていくことを許しません。
- ・ 障害児教育にたずさわる教員について、事前の教育がありません。教育大学で、2014年から1コースあるのみです。
- ・ セラピスト（療法士）の不足。国の段階で僅か20名のセラピストが職に就いているだけです。モンゴルはこの20年間、セラピストの専門教育を受けさせるために学生を海外へ派遣することはできませんでした。
- ・ 障害児教育に精通した専門家が教育省にいません。
- ・ モンゴルには、障害児のための学校は僅か6校、幼稚園は2園だけです。そして、その全てがウランバートルにあり、地方にはありません。
  - ・ 聴覚障害2
  - ・ 視覚障害2
  - ・ 精神障害2
  - ・ 幼稚園2
- ・ 障害児をもつ保護者の団体が2010年にウランバートルに設立されました。その支部が地方で活動しています。
- ・ 自閉症についての団体が2014年に設立されました。
- ・ 保護者の一人は職がありません。
- ・ 保護者のほとんどが辺鄙なゲルに住んでいて、電気、水道、ガス等がありません。

- ・ 障害児学校に勤務する90%の教員はそのための教育を受けていません。
- ・ 障害児教育の基準はまだありません。

### 日本を訪問したい理由

モンゴルは、社会主義体制が崩壊した後、様々な活動を通して、移行期間の間のこの20年間、日本と緊密な関係を培ってきました。日本政府はモンゴルの発展のために、大きな支援をしてきました。JICAは教育について、いくつかのプロジェクトを実行に移してきました。そして、それは教育方法の改善に重要な結果をもたらしました。

質の高い教育を身につけようと、多くのモンゴル人が日本で研究したいと思っています。私は幸いにも日本で学んだ者の一人であります。私は2000年から2006年にかけて、広島大学で学び、卒業し、教育行政の博士号を取得しました。それ故、モンゴルと日本との架け橋として寄与したいと思っています。日本から帰国した後、私はアメリカのPeace Corps、日本のSave the Children、そしてJICAなどで働いてきました。“Save the Children”にいる時は、“Children with Disabilities”(CWD)計画について働いてきました。この計画は“Association of Parents with Children with Disabilities”(APDC)を設立することに目標をおきました。その時から、私は障害児、特に彼らの教育について携わってきました。機会があればいつでも、この部門を改善していくことを助け、支援していきたいと思っています。

そういう訳で、Htさんが障害児教育で働いていることを知った時、モンゴルへ来ることを頼みました。この分野で働く重要な人々と連絡をとることについて、彼女に支援していただき事を深く感謝しています。新しいモンゴル政府、特に日本の大学を卒業した大臣は、モンゴルと日本との間の教育における関係を高める事を強調しております。

私が障害児の組織を設立する事において多くの問題に直面して以来、日本での障害児に対する教育は、近代的な組織として尊敬されています。それで、私たちは、日本政府、国民、教師、子どもたちや保護者が、どのように障害児に接し、教育し、世話をするのか学びたいと思っています。私たちは政府と民間の団体から成るチームで、障害児の発展、発達を高めていくために、どのようにチームとして働いていけば良いのか日本から学びたいと思っています。



## 研 修 の 概 要

日本サーバス近畿支部長

- 1、期 間： 2015年5月8日(金)～16日(土)
- 2、場 所： 大阪、京都 滋賀
- 3、目 的： 障害のある子供たちの制度を理解する事
- 4、目 標： 日本の経験から学ぶ
  - ・学校教育（障害児支援学校と通常学校）
  - ・国及び地方公共団体を含む介護活動の組織
  - ・保護者の団体とその活動

### 5、日程

|   |
|---|
| 8日(金)<br>大阪関西空港より来日 それぞれのホスト宅へ。   |
| 9日(土)<br>東本願寺見学<br>モンゴル歓迎交流会(11:30～15:00) 近江屋ロープ株式会社にて<br>〒600-8310 京都市下京区七条通西洞院東入ル<br>交流会後ショッピング<br>「Brass Ensemble Saturday」によるコンサート 京都府民ホールアルティにて                    |
| 10日(日)<br>知的障害児・者施設「止揚学園」<br>〒521-1222 東近江市佐野町 885 Tel 0748-42-0635<br>文化遺産 大津市「ながらの座・座」にて夕食<br>〒520-0035 滋賀県大津市小関町 3-10 Tel 077-522-2926                               |
| 11日(月)<br>障害者支援施設「ともがき」見学と講義<br>Kr氏 Sm氏「障害児に対するケア及び学校システムについて」<br>〒563-0113 大阪府豊能郡能勢町倉垣60 TEL 072-737-2133  |
| 12日(火)<br>午前 大阪府立富田林支援学校<br>〒584-0054 大阪府富田林市甘南備 216 Tel 0721-34-1675 0721-34-1677<br>午後 社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団 金剛コロニー<br>〒584-0054 大阪府富田林市大字甘南備 216 番地. TEL : 0721-34-2180 |
| 13日(水)<br>午前 2つの支援学校を2班に分かれて見学  |

|   |
|---|
| <p>大阪府立視覚支援学校<br/>〒558-0023 大阪市住吉区山之内一丁目 10-12 Tel 06-6693-3471</p> <p>大阪市立聴覚特別支援学校<br/>〒540-0005 大阪市中央区上町 1-19-31. 電話, 06-6761-1419</p> <p>午後 大阪LD親の会との話し合い ドーンセンタにてー<br/>〒540-0008 大阪市中央区大手前 1 丁目 3 番 49 号 TEL 06(6910)8500</p> |
| <p>14日(木)</p> <p>午前 京都市立凌風学園 (小・中一貫校 障害児学級併設)<br/>〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 56 Tel 075-693-8222</p> <p>午後 京都市教育総合相談センター<br/>〒604-8184 京都市中京区姉小路通東洞院東入ル曇華院前町 706-3<br/>Tel 075-213-5622</p>   |
| <p>15日(金)</p> <p>研修のまとめ<br/>観光(京都市 光明院 伏見稲荷神社、 大阪市)<br/>ショッピング</p>  |
| <p>16日(土)</p> <p>大阪関西空港より離日</p>   |

#### 6、参加者名簿

| 名前  | 所属団体            | 地位          | 性別 | 年齢 |
|-----|-----------------|-------------|----|----|
| B.K | 教育科学省教育研究所      | 副主任         | 女  | 45 |
| T.T | 教育科学省教育研究所      | 特殊教育課程研究員   | 女  | 41 |
| C.J | 教員教育センター        | 神話学員        | 女  | 50 |
| P.M | 障害のある子供を持つ保護者協会 | 子供発達センター教員  | 女  | 34 |
| B.B | 障害のある子供を持つ保護者協会 | 民生委員 指導的保護者 | 男  | 46 |
| B.S | 自閉症連絡会          | 保護者 (父)     | 男  | 32 |
| D.U | 自閉症連絡会          | 保護者 (母)     | 女  | 32 |
| S.C | 自閉症連絡会          | 自閉症児童       | 男  | 9  |
| N.B | 障害に寄り添う特別学校     | 学校経営者       | 女  | 49 |
| D.O | 障害に寄り添う特別学校     | 教員          | 女  | 49 |
| S.U | ダウン症連絡会         | 保護者 (母)     | 女  | 35 |

#### 7、ホームステイ提供者(日本サーバス会員)

|          |     |
|----------|-----|
| S family | 大津市 |
| W family | 大津市 |

|          |     |
|----------|-----|
| A family | 和泉市 |
| H family | 京都市 |



## 研修の成果

### モンゴル障害児教育研修団代表

2015年5月8日から16日、大阪、京都、滋賀を訪問中に多大なおもてなしを受け、皆様の多くの活動や経験を共有出来た事に対して、モンゴル研修団を代表して感謝します。この研修旅行の成果を、モンゴル研修団は次のようにまとめました。

#### 1、学んだ事

- ・この旅行で私たちの心は開き、如何にして自分自身がより良い人生を作るかを含めて、発達、教育等について、私たちの理解を変えました。日本では、誰もが全ての子供たちのために貢献し、教育しているのを見て驚きました。「全ての人が一人のために、一人の人が全てのために」があるのを見る事が出来た事は幸せです。
- ・日本の文化は、他人への尊敬、他人のために心の底から懸命に働く事、両親や先生たちが子どもをどのように教育するか、そして、客のもてなし方等、多くの事を教えてくれました。伝統的価値を保っていく事、そして、それを現在あるいは未来の発展のための基礎にする事を学んだのは、大きな教訓でした。
- ・善良で、幸せで、健康的な国民を育てるために、全ての子どもの教育、発達に誰もが関心を持ち、寄与する日本の教育、保護のシステムに至る所で見ることが出来ました。

**特別な教育、保護を必要とする子供や大人に関して、次の事に気づきました。**

- ・地球はひとつの大きな家族です。誰もが、どの子供も異なっています、そして、皆長所と短所を持っています。その意味で、私たちは皆同じです。
- ・誰もが義務と責任を担って生まれてきました。他の人よりも多くの権利を持っている人は誰もいません。全ての人々は幸せに生きる同等の権利を持っています。
- ・見えないものが見えるものよりも大切な時があります。その事によって、人々は深く考え、お互いの心に触れ、そしてますますお互いに愛し合う事が出来ます。
- ・誰もが大切な存在です。最初に彼/彼女の感情、考え、あるいは長所としての能力を理解する事に努めよう。と言うのは、皆与えられた才能を伸ばすための素晴らしい能力を持っているという事です。

**特別な教育と保護を必要とする人々と共に働いている職員に関して、次の事に気づきました。**

- ・暖かい心使い
- ・協力的で率先的
- ・大きな家族の一員であるという意識
- ・統制の取れた管理

## 2、私たちの計画

### モンゴル

- ・日本での私たちの研修旅行について、テレビ番組を通して、障害を持った子供についてのモンゴル人の意識と理解を変えていきます。
- ・研修旅行団は教育文化科学省に報告と発表を行います。
- ・メンバーは各々の情報を、それぞれの団体、例えば教育研究所、現職教員の研修、障害児学校、障害児と親の会、自閉症・ダウン症の会等と共有(報告) します。
- ・私たちは現職教育を通して、教師や行政と日本での体験を共有します。
- ・モンゴルの教育機関、学校、親の会との間の協力は、きっと政策に携わる人々に届くと思います。

### 日本とモンゴル

- ・先ず初めに、夏に日本の障害を持った子供と親を受け入れる計画があります。出来れば、モンゴルの障害を持った子供たちと共にキャンプをしたいと思います。
- ・教育、リハビリ、社会福祉の分野を考慮にいれ、新しい考えや行動を創り出していく事によって、協力関係を継続していく。例えば、モンゴルにはたくさんの馬がいるので、馬によるリハビリが可能です。
- ・いつでも、どのような事でも私たちに連絡して下さい。



## 3、訪れた学園

### 止揚学園

歌を聴いたり、歌ったりして止揚学園で楽しいランチタイムを過ごしました。「見えないものが見えるものよりも大切である。」という道



徳観/スローガンに感銘を受けました。このスローガンはいたる所で、あらゆる人から聞いたり、見たりしました。止揚学園は「ひとつの大きな幸せの家族」であり、そこではみんなが幸せです。どのようにして、ひとつの幸せな家族を創るかを私たちは学びました。

## ともがき

私たちはともがきの全ての人と友達になりました、なぜなら、「ともがき」は、友達が集う場所を意味するからです。ともがきで、ケアと障害児教育制度についての Kr 先生と Sm 先生の講義を聴いて、多くの事を学びました。ともがきが保護者と地域社会



の支援を受けて、どのように設立されたかに、私たちは深い感銘を受けました。園長先生は日本の管理職は職場でどのように自由に振舞っているかを見せてくれました。それはモンゴルとは違って、モンゴル人には勉強になりました。茨木の駅からともがきまで私たちの送迎して下さった Tm さん、Nm さん、Ft さん、通訳をして下さった Eh さん、有難うございました。

## 金剛コロニー

どのように社会的、教育的、健康上のサービスを全ての人に供給するか学ぶ事は、モンゴルにとって大きな成果でした。障害を持った人々の制度をどのようにして作るか、モンゴルにとっては良い手本であり、大切な事です。教育、健康、そして社会制度をよく理解



出来るそのような場所を見せて頂いて、有難うございました。モンゴル人の Bt さんに会えた事も、とても良かったです。リハビリ、もてなし、学校や社会制度を考慮して、障害のある人々のための社会的、教育的制度をどのように作れば良いか、私たちにとって良い勉強になりました。

## 4、訪れた学校

### 大阪府立富田林支援学校

至る所で人々を幸せにする子供たちに会えて素晴らしいでした。子供一人ひとりに対する教育計画、保護者との共通理解、教材、発達診断テスト、そして、授業見学等、素晴ら

しい時を過ごしました。校長先生がモンゴル語で話して下さり、副校長先生がモンゴルのゲルを作った事があるとお聞きして、とても感動しました。子供たちには先生よりも空間的余裕があるように思えました。職員室は狭く窮屈そうでした。私たちは、一人ひとりの子供のためのプラン、安全と良い環境を通して、どのように子供たちを伸ばしていったら良いかを学びました。幸せな子供たちと共にいる暖かい心の先生を感じました。



### 大阪市内の支援学校



私たちは大阪市内で2つの支援学校（大阪府立視覚支援学校、大阪市立聴覚特別支援学校）を訪れました。一つの学校では学齢以前の学校から専門学校まで教育/学校制度を見る事が出来ました。もう一つの学校では、創立者がいかに努力して学校を作られたかをお聞きして感動しました。学校環境、教材、授業を見せて頂き、有難うございました。日本の授業方法はモンゴルのそれと非常に異なっている事を実感しました。日本での授業は、それぞれの生徒の必要に応じて行われ、先生は教える事に優れ、生徒は学ぶ事が幸せそうでした

### 京都市立凌風学園

障害児支援クラスのある通常の学校を訪問する事は、モンゴルの包括的教育のための良い手本でした。最近、十分な経験と準備のない包括的教育について話し合っています。このような教育はモンゴルでは今まで殆どないアプローチです。学校環境を見せて頂いたばかりでなく、障害のある子供たちと接



しられて、子供と連携する皆さんの経験を共有出来ました。モンゴル研修団は生徒たちの能力と先生の授業力に感心しました。幸せそうに学ぶ生徒たちを見るのは楽しい事でした。この学校で学んだ事をモンゴルの学校でも生かしたいと思います。

## 5、教育・保護者機関の訪問

### 京都市教育総合相談センター

モンゴルにとって最も大きな問題は、障害について助言出来る専門家と専門機関のない



事です。センターの訪問は、障害児に対する京都の教育活動の情報を得る大きな機会でした。京都市教育総合相談センター訪問で、依頼人に対する相談業務について学びました。モンゴルには相談センターのようなものがないので、障害をもった子供の親は、政府から社会でのサービスや教育サービスの助言を受ける事は困難です。京都市教育委員会と京都市教育

相談総合センターの教育やサービス制度は、私たちにとって大きな手本であり教訓です。Stさん、非常に有用な研修の場を準備して下さいまして有難うございました。Sfさん、Mkさん、Sbさん、Nmさん、Itさん（何人か抜けているかと思いますがすみません）、モンゴルに有益な情報を頂き、有難うございました。

#### 大阪LD親の会との話し合い

学習障害の親の会の代表者と素晴らしい時間を過ごしました。親にとっては得る所の多い勇気づけられる時間でした。親の会の方は、保護者がどのように学校や公共団体、あるいは自治体と協力してきたかという経験や、どのように学習障害を紹介するか等を教えて下さいました。いかに日本人の保護者、地域社会、学校や教育部門、NGOが子どものために協力してきたかを知る事は、とても感銘的でした。子供さんと一緒にどうかモンゴルへ来て下さい。ともに楽しい時を過ごしましょう。そのことを通してお互いに理解し、子供たちの間に橋をかけるという夢があります。



#### 6、5月9日（特別の日）

私たちの行動の初日である9日の朝、東本願寺を訪れました。普通には入れない特別な部屋も見せて頂き、お寺の活動について非常に素晴らしい話を聞きました。モンゴルは社会主義が崩壊して、この25年間で仏教がモンゴルで主要な宗教となりました。しかし、私たちは宗教の重みについてよくわかりませ



せん。なぜなら社会主義体制では宗教は禁じられていたからです。それ故、日本人が伝統

的な価値観と近代的な科学技術との間の均衡をどのようにとっているのかを見て、良い勉強になりました。

## モンゴル歓迎交流会

モンゴル研修団を歓迎してくれた全ての参加者に感謝します。皆様の暖かい心に触れて感激です。「Mongolia-WELCOME-Servas Japan モンゴルー歓迎ー日本サーバス」の幕は、明るい、暖かい、そして色彩豊かな'HEARTS'のように綺麗でした。この貴重な時を決して忘れません。交流会はサーバスとは何かをモンゴル人に教えてくれました。交流会に2つの音楽団が来てくれました。1つはLSCのケイオンズです。昔の音楽や歌を聞いて楽しみました。まさにプロ！いける！という感じでした。このような音楽家を招いてくれて、Htさん有難う。もう一人はモンゴル人のBtさんです。'Morin huur'を演奏し、伝統的な長歌や'Huumii'を歌って下さいました。一人でこれらを演奏し、歌うのを

聴いて信じられませんでした。才能に恵まれたモンゴル人でした。金剛コロニーのTsさん、彼を紹介して下さい、有難うございました。



### 日本サーバス

日本サーバスの会長は東京から来られ、3日間私たちと一緒に行動して下さい、サーバスについていろいろ教えて下さいました。近畿支部長のHtさんは、この全ての活動を計画、調整し、研修に関係したあらゆる人を引っ張ってこられました。Htさんがされた事に感謝します。これは私たちの心と目を開かせてくれた驚くべき計画でした。





Nt 様、

歓迎交流会の会場を提供して下さいまして有難うございました。奥様の Ne さんの明るい微笑を決して忘れません。私たちのある一員は Ne さんが素敵な微笑を浮かべて部屋に入ってきた時、パーテイルームが一層明るくなったと言いました。また、来る機会があれば、今度はあなたの会社をもっと訪問したいと思います。Ch 君が車で行きたいと行った時、車で送って頂きありがとうございました。

歓迎会の後、私たちはユニクロへ買い物に行きました。ユニクロはモンゴルでも有名です。その後、ブラスバンドの演奏会を楽しみました。モンゴル語での 'Welcome' の挨拶文を見つけて、嬉しくて興奮しました。Ks さん、この素晴らしいコンサートに連れて行って下さり、有難うございました。今まで、このようなコンサートを見た事はありませんが、日本で見る事が出来ました。計画には無かった買い物を含めて、4つの活動をこなしたびっくりするような1日でした。



## 7、フリータイム

### 「ながらの座・座」 360年前の古い家 文化遺産

私たちは Ht さんの友人、大津市の Hs さんの家を訪れました。そこは「ながらの座・座」と呼ばれています。このような素敵な伝統的



な遺産を見る事は信じられない事でした。面白い事に、'Za, Za' はモンゴル語で、英語の Yes, Yes を意味し、日本語では「はい、はい」です。世界の価値ある貴重な遺産を共有出来て有難うございました。私たちはこの素晴らしい時を忘れません。ながらの座・座に大津の Sz さんが来られました。そして、Ht さんにサーバス活動を新入会員に紹介するように頼みました。サーバス活動をする会員に会うことは素晴らしい事でした。私たちサー

バスモンゴルはもっと会員を増やすように頑張ります。モンゴルに来られる時は連絡して下さい。モンゴルに来られる全ての方を歓迎します。

私たちはこの他、大阪市の学校見学の日、お昼の時間を利用して**大阪城**を楽しみました。京都市では、最終日に有名な重森三玲さんの作られた庭のある**光明院**にも行きました。日本庭園を見る事は、モンゴル人にとってとても素晴らしい事でした。モンゴルにも四季はありますが、冬は-30℃ととても寒く、春は乾燥していて、夏は30℃になります。でも、夏と秋のモンゴルは素敵です。外国人観光客に人気一番の**伏見稲荷神社**も訪れました。そこで着物姿の人と一緒に写真を撮りました。

モンゴルの伝統的な着物は「DEEL」といい、日本の着物のようです。



殆どのメンバーがホスト宅で日本料理や伝統的なお茶を楽しみました。モンゴルとはとても違うものでしたが、とても美味しかったです。

9歳のCh君は食べるのに難しい点があります。ホスト宅で美味しいお料理を作っても、カップヌードルを食べたりします。でも、彼はモンゴルとは違って、とても開放感を感じていたし、いろんな物を見たり、いろんな事を楽しみました。ともがきでもCh君とお父さんは園のスタッフと楽しみました。他のメンバーにとっても日本で幸せなCh君や両親を見ることは幸せでした。



## 8、サーバスホスト

### S family—子どもたちの幸せなお城—

ホストの皆さんと話す事は素晴らしい事でした。私たちは彼らから'LOVE'について学びました。この'LOVE'は特別です。「どの子供も自分の子供のように愛する事」です。Sさんの息子さんの若いカップルShとUyも来られて、モンゴルのChと過



ごして下さいました。私 Hg は S さん宅で最後の 3 日間を過ごしました。私たちは Sy さんと Ss さんから Ch を含んで人々をどのように愛するかを学びました。私たちに人生の意味、お互いに愛し合うという事、子どもを教育すると言う事を教えて頂いて、とても感謝しています。

Ch はいつも Ss さんが彼に言う「大丈夫」という言葉を学びました。Ch の両親はモンゴルでつらい時を過ごしています。多くの人が Ch を理解しないので、彼らは外出をためらっていました。日本では彼らはとても幸せでした、なぜなら、日本の人は彼らの事をよく理解し、S さんは非常に支援的であったからです。私たちは非常に幸せです、なぜなら、Ch と両親は間違いなく日本で一番幸せな時を過ごせたからです。

Ss さん、皆に対する、特に Ch に対する愛情を心から感謝しています。私たちが食べた物はどれも美味しかった。一晩で、2 キロの肉をバーベキューで食べました。幸せに生きる事を教えて頂きました。私たちの人生で本当に貴重な時間でした。あなたは素晴らしい先生です。

Sy さん、あなたが「インスピレーション」という時、私たちの目と心が開きました。この言葉で、私たちは Ch の事が理解出来るようになりました。Ch に対する愛情で、私たちはどんなにあなたが偉大な父親か驚きました。あなた方は偉大な両親です。Ch の両親は心からあなた方の事を‘Dad and Mon’と呼んでいます。モンゴルの Ch に会いに来て下さい。彼はもう一度あなた方に会える事を望んでいます。私たちはお二人の事を決して忘れません。

#### W family—平和で幸福なお城—



Ca, Mu と私の 3 人は渡邊さんのお城に滞在する事を大いに楽しみました。そこでは平和と幸福を感じました。毎晩、私たちの心と精神を開いてくれる素晴らしい話がありました。私たちはこの家族の 21 番目の国からの 201、202、203 番目のゲストでした。Wa さんは子供の頃の話や、私たちが平和に暮らすにはどうすれば良いか理解させてくれる日本や外国の友達について話してくれました。それは、サーバスについて私が学ぶ良い勉強でした。まさにお二人は日本や海外の全てのサーバスホストの手本です。私たちは、Wa ママが S さん

の所からのサンドイッチで日本、ヨーロッパ、アメリカ、フランス、スウェーデン風朝食を用意して下さいました。もちろん、夕食も忘れられない話と共に美味しかったです。

5月10日 母の日 私たちはWaさんのためにモンゴルの「母」の歌を歌いました。モンゴル人は世界で最も愛されている母について歌うのが好きです。「家族一愛」の関係は伝統的な価値としてモンゴルでは強いです。母の日に、息子さんがやって来たので、Waさんはとても幸せそうでした。私たちも一つの家族として幸せを共有出来ました。Wa ママ有難う。

Wb パパ、私たちを家族の一員として、「モンゴルの子どもたち」と呼んでくれて有難う。「LOVE」についての歌を聴く事はとても素晴らしい事でした。私たちはWa ママの友達との家族パーティーも楽しみました。Wb パパがモンゴルの広い草原でアンサンブルを指揮し、Wa ママと Ch と Mu が日本とモンゴルの歌を歌うのを忘れないで下さい。広い草原、自然、遊牧民やゲルを見ると、モンゴルの長歌、Morin huur Huumi を感じる事が出来ます。モンゴルのステップでアンサンブルコンサートを催すためにモンゴルへ来て下さい。

#### A family—特別にデザインされたお城—

Mu と Ch は、A さん宅で異なった建物や建築物等を含めて、日本とモンゴルの文化について話す事を楽しみました。二人は次のものを見て驚きました。1) インテリアデザインについての At さんのアイデア 2) Ak さんの庭 3) もっと、もっと学びたいと二人が興味深い事。私たちを泊めて頂き、丸一日大阪を案内して下さい、有難うございました。生活を幸せな意味のあるものにするために、新しいアイデアを創り出す生活を二人がどんなに楽しんでいるかを私たちは学びました。(以上 Mu と Ch)



私は空港でAさんに会い、羊、ヤギ、馬、らくだ、そして、牛のミルクを飲んでみたいと言うあなた方の望みを聞いて驚きました。モンゴル人としてそんな事は考えた事ありません。例えば、私はとても美味しい‘aaruu’は食べますが、羊やヤギのミルクを味わった事はありません。どうかモンゴルへ来て、異なった種類のミルク味わって下さい。そして、クリーム、チーズ、aaruu、ヨーグルト、酒を試してみてください。モンゴル人は日本のお酒と味の似た酒をミルクから造ります。遊牧民の生活を見るために田舎へ行くのは夏

が一番です。遊牧民は夏と秋に乳製品を作ります。一度に5リットルも馬のミルクを飲む男の人もいます。これは健康に良いです。

#### H family—Project office—



5人のプロジェクトマネージャーの女性がHさんの家に泊まりました。5人の内4人はセラピストなので専門家集団です。彼女たちは生活の仕方、平和、平井さん宅付近の環境を楽しみました。Hさんのように日本人が忙しく生きているのを見る事は良い経験でした。

Heさん、今回の計画を遂行するのにHtさんを助けて下さって有難うございます。この企画はあなたの励ましがなかったら成功しなかったでしょう。この計画を通して、あなたの家族はモンゴルの障害児たちの発展のために大いに寄与して下さいました。

Htさん、写真では小さいですが、あなたの心、精神、愛、仕事、そして我慢強さは非常に大きく、地球のように巨大です。Hさん家族に心から有難う！

#### 9、サポートして下さった方々

Snさんはモンゴルの名誉文化大使、日本モンゴル文化経済交流協会の代表です。日本とモンゴルの間に橋を架けてこられました。大阪は東京に次いでよく知られています。その大阪で、14年間モンゴル大使館の領事として働いてこられました。日本とモンゴルの間の自然、社会、芸術、文化に関する活動や計画を立ち上げ、組織してこ



られました。彼女には日本とモンゴルの間の架け橋である、多くの有名で才能に恵まれた友人がいます。例えば、有名なジャーナリストのBaldorj、才能に恵まれた歌手のNorovbanzad、有名な指揮者のBatchuluun等です。Snさん、あなたから支援を受けた事は光栄です。モンゴルの発展のために寄与して頂いて有難うございます。私たちは皆感謝しています。

Krさんは、Htさんと共に大阪、京都、滋賀でモンゴル研修団の研修を計画し、調整するのを支援して下さいました。私たちはあなたの障害児に対する講演を聴いて、あなたが

特に大阪で、障害児支援教育の発展に大いに貢献された事を知りました。又、Chの両親に



障害について話を頂き、助言して下さいました事に感謝します。私たちはあなたがして下さいました事から、保護者、公共団体、教育関係者、学校等の全ての団体と、どのようにシステムを築き上げていくかを学びました。

Smさんは、Krさん、Htさんと共に研修場所への連絡を取ったり、調整したりするお世話をして下さいました。又、日本での障害児教育制度（現職教員と予備教育を含めて）について有益な情報を講義して下さいました。私たちは、政府組織、非政府組織を含めて、障害を持った子供たちと親の全体的な制度を見る事の出来るセンターや学校を見学する事が出来ました。又、組織全体の概要図を見る事が出来ました。この大きな計画をして頂いて、有難うございました。



京都のまとめ役で調整役のStさんは、京都市教育総合相談センター、京都市立凌風学園を訪れるお世話をして下さいました。障害をもつ子供たちを支援する制度はモンゴルではまだ確立されていません。それで、彼らのための教育支援制度を見学する事は大いに役立ちました。私の通訳は上手ではありませんでしたが、

研修団のメンバーは教育委員会と教育相談総合センターの情報がとても役に立つと言いました。京都市立凌風学園の授業は、包括的な教育の素晴らしい手本として、大いに印象づけられました。

モンゴルで障害児教育のために働いた事のあるHkさんに会えて大変良かったです。私はモンゴルで、2009年に彼の講演を聴きました。その時、彼はモンゴル教育大学で講義をしていました。「特別な援助が必要とされる障害をもつ子供が愛情溢れる家庭にやってきた・・・自分たちをより幸せにしてくれる子供たちのために両親が選ばれている」という彼の考えを私は決して忘れません。今回の素晴らしい



有益な大阪、京都、滋賀での研修から、私たちは彼が数年前にモンゴルの人々に言った事を理解し、納得しました。特別に援助を必要とする障害児教育に途切れ目のない支援を頂いて有難うございます。カリキュラムを発展させ、助言を与える事を通して、教師を育成するという意義ある彼の貢献はとても価値ある事です。

最後に、特筆すべきはこの素晴らしい家族、Heさん、Htさん、そして、Ksさんへの感謝です。今回の研修旅行を計画して下さい、大成功だった事にとっても感謝しています。あなたがたに対する感謝を超えて、全てを含む特別な感謝の気持ちを受け取して下さい。



全てのホスト、受け入れて下さった方たち、支援者の方たち、私たちを日本で歓迎し、支援して下さいました。忘れられない思い出を与えて下さって、本当に有難うございました。私はあなたがたを大統領と呼びます。あなた方は日本とモンゴルの障害児の間に架け橋を作ってくれるでしょう。皆さん、是非モンゴルへ来てください。大歓迎です。



## 未来に向かって

日本サーバス近畿支部長

計画が出来上がって取り組んだ当初は、この計画が上手くいくようにとばかり願っていました。けれども軌道に乗って動き始め、実現の見込みがついてくると、これだけでも大きな進歩だけれど、これが終わると全て終わりというのではなく、もっと助け合っていけないものかと思うようになりました。



というのは、今回の研修は障害児に対する社会的なケアのシステムというようなもので、どのように展開していけば良いか等、具体的な事については深く研修出来ないからです。一方、支援金は目標額をはるかに上回って集まりました。その用途について、支援金を頂いた方に相談した所、モンゴルの障害児のために使って欲しいとの事でした。そこで私の頭に浮かんだのが、モンゴルの郊外で見た木造の素敵な宿泊施設（キャンプ場）でした。それはベッドで10人ずつ宿泊出来る4つの建物と、食事やプログラムが展開出来るメインホールのある1つの建物から成り立っていて、NGOが運営しています。そこへは今回の研修にも参加されたChさんが連れて行って下さいました。Chさんは学校の先生でしたが、学校を辞めて、家庭の事情で学校に来られない子供たちや障害児のための教室を、教会の1室を借りて、運営されています。Chさんはそのキャンプ場で子供たちとキャンプをされた経験があり、スタッフも含めて40人で行い、1週間30万円だったと言われました。お寄せ頂いた支援金は、今回の必要額を差し引いても30万円はあります。それを使って、そのキャンプ場で日本、モンゴルの障害児親子が共に過ごし、理解を深め、励ましあえる関係が出来たら良いなと思いました。歓迎交流会で提案した所、積極的に受け止められました。今、モンゴルでは来年の実施に向けて計画して下さっています。日本では、モンゴルの方が来られた時、話しあった大阪LD親の会が、例会で会員にこの件を報告されると、数人の方が関心を示されたとの事です。それで、来夏はモンゴルで日本・モンゴル障害児交流キャンプを実施する事になると思います。

今回のモンゴル障害児教育研修は、日本サーバスが主催しましたが、今後をどうするか。サーバスはホームステイという形で、世界の人がコミュニケーションを通して理解し合い、世界が平和になるように活動するのが趣旨ですから、障害児に深く入り込んだ段階では、日本サーバス主催というのは、どうかと思われれます。それで、今回の計画や実施面、又、資金面で協力して下さいました方々を母体に、モンゴル・日本障害児交流会というようなものを立ち上げて、その会が運営母体となって活動していけばどうかと思います。来年の交流キャンプも含めて、今後どのように活動するかですが、来年度の事も今年実施していて湧いた考えですから、実施していく中で、必要な事が出てくると思います。

ご協力下さった皆様には、後程ご相談させていただきますので、どうぞ宜しくお願いします

## ご協力いただいた方々

日本サーバス近畿支部長

今回のモンゴルの事については、計画や実施面、又、資金的な事まで、非常に多くの方のお力添えがありました。心からお礼申し上げます。





発行 日本サーバス  
編集 日本サーバス近畿支部  
発行日 205年8月吉日